みんなの広場

ご覧ください

テレビ埼玉

●所沢リポート

12月21日㈮／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映

『新鮮な地元野菜を学校給食に』

シティケーブルネット

●広報ところざわ テレビ情報館

12月20日㈭～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組

今年も２日間で40万人の人出がありました。野外ステージも超満員。第22回所沢市民フェスティバル。
10月27日㈯・28日㈰／所沢航空記念公園

リサイクルふれあい館

不用品ガイド

●譲ります ▽帆布張り洋服ダンス（組み立て式）▽学習机▽テレビ（21インチ）▽電気こたつ▽電気温風器▽家庭用印刷セット▽碁盤▽幼児用ベッド取り付け式玩具▽子ども用自転車▽ドラフター（製図器具）▽ベビーバスケット

●求めます ▽桐製和ダンス▽ファクス▽電気パン焼き器▽電気オーブンレンジ▽大人用剣道防具一式▽トレーニング用足踏み器▽一輪車▽着物着付け練習用ボディ▽手織り機

受付方法 電話による先着順で紹介します。5日が休館日の場合、翌日からの受け付けになります。利用者は所沢市民に限ります。

休館日 月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ リサイクルふれあい館（☎944－0008）

年末年始恒例、イルミネーションに灯がともりました。まばゆい光が冬の到来を感じさせてくれます。
来年２月下旬まで／ミューズ・正面広場

所沢は航空発祥の地。秋晴れの青空の下、その歴史を訪ねて航空公園内に残る史跡を見て歩きました。
11月18日㈰／所沢航空記念公園

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「マンガ大好き」▶マンガといっても多種多様▶ギャグマンガ、スポーツマンガ、グルメにホラーに１コママンガ…▶思い出のマンガ、笑った・泣いたマンガ、おすすめ作品等、世代を問わずお寄せください▶テレビアニメは除きましょう！▶締め切りは12月11日㈫必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１－１－１所沢市役所広報広聴課「みんなの広場」係

先生と有志で行った手作りの音楽会。普段なかなか聴けない楽器の音色が最高のプレゼントでした。
11月７日㈬／柳瀬保育園

誰でもエッセイ

テーマ〝車〟

現代・車社会展望

寿町・櫃谷　菊子

先日、私は息子の車に同乗しました。ウインカーを出し、スピードを上げて追い越し車線に入るうちに、ウェイブした高速道路の前方に展開された都市群像が美しく見えます。

が、一瞬、ハンドル操作をミスしたり、他車のサインを見落としたりしたら死の世界でしょう。

道路標識や案内には、「3キロ渋滞」や「サービスエリアに空あり」などの情報が満載。らせん状に曲がった眼下の高速出口では、車が長蛇の渋滞でした。

これが、地上数キメートルの高さのハイウェイから展望される現代社会の実像ですね。みんなが急ぎ、みんなが危険と背中合わせ。時には渋滞にイライラして…。

これが誰もが望んでいた近代的社会だったのでしょうか。中空ハイウェイから、地上とは違った目で現代社会を体験しました。

幻の無免許運転

山口・山本　映

大阪に住んでいた当時のこと、山口県の某簡易裁判所から一通の封書が届いた。開封して驚いた。交通違反「無免許運転」に対する出頭命令だった。

高校時代、父親の交通事故を契機に、車だけは運転するまいと自分自身に言い聞かせてきた。ましてや、運転免許も持たない素人の私が、大阪～下関間、四百数十キロを無事故で運転することは至難の業である。

また、違反したとされる当日は、会社の業務に携わっており、はっきりしたアリバイがある。にもかかわらず、無免許運転の濡れ衣とはまったく情けない話である。

なんとしても無実の罪を晴らしたいと、地元の警察を訪ね相談したところ、署が責任をもって対処すると確約を得た。

あれから30有余年。事の真相は解明されなかったものの、出頭命令だけは二度と手にすることはなかった。

田舎の思い出

上安松・三村　絹代

私が子どものころ、田舎には大八車があって、重たい物を運ぶときは馬が引いていました。

病人やけが人が出たときも。お米の出荷のときは、米俵を何俵も積んで坂道を登って行きました。

農家の大事な足でした。

長々としたかやぶき屋根の一角に馬小屋があり、自分たちの食事をする前に馬の世話をせず、親にしかられている子を私は横目で見ていました。泊めてもらったお客さんが、もの珍しさも手伝ってこわごわ馬のそばへ行ったりしていました。

今は車社会。田舎も耕運機から田植え機、トラック、自家用車と便利になった分、経費が大変だと思います。

インドの力車

北岩岡・河村　文雄

20数年前、初のインドへと一人旅立った。富と貧困、聖と濁、あらゆる混沌がそこに存在した。若い私はただぼう然と日々を過ごしていた。

滞在中、貧乏旅行者の足となってくれたのはＲＩＫＳＨＡ（カ車、つまり人力車であった。そして驚いたことには、現地での名前も、「リキシャ」、そのままなのである！

「ヘイ、ジャパニ（日本人）！リキシャ？」と安ホテルを出ると、待ち構えていた力車夫が声を掛けてくる。

もちろん、日本語が語源なのだというが、どのように伝わってインドまで来たものか、不思議だ。

数年前、今度は妻とインドを再び訪れた。数こそ減って自転車でこぐタイプが多いものの、まだまだリキシャは健在で、何とはなしにうれしかったものである。

どうしているかな？

並木・横須賀　みどり

子どもの通う学校の近くに、中古車がビカビカに磨かれて出番を待っています。

なぜかその中の１台と目が合ったような気がしました。近づいてみてその訳がわかりました。深くて青い、そして緑がかった田舎の海の色と同じ色だったのです。

年式は古いけれど、お値段もなかなかの車でした。「ごめん。今の私には無理だわ」と、ボディに乗っている落ち葉をそっと払ってその場を離れました。

しばらくたって同じ場所を通ったとき、あの車がありませんでした。娘を嫁に出した親のような気持ちになって、「大事にされているかしら」と、毎日流れる車を目で追っている私です。

どうなることやら…

三ケ島・杉村　キミ子

文化の日、公民館でいろいろな催し物があると聞き、珍しく友達の車に便乗して出かけました。

いつもはほとんど空いている駐車場は満車。三ケ島にもこんなに車があるのかとびっくりするくらい押し寄せてくる車の波。５、６人の交通整理の方もなすすべもないようです。

見渡したところ、本道を残してどこもかも車が停まっています。遠くにかろうじて駐車でき、はるばる歩いて館内に入りました。

私たちは車に乗ることが習慣づき、ついつい車のお世話になります。それにつけてもいったん事が起こったとき、みんなが車で避難したらどうなるでしょう。恐ろしい気持ちになりました。

次回のテーマは「マンガ大好き」です

転ばぬ先の杖

下安松・大橋　英敏

古希を境に、慣れ親しんできたマイカーを手放した。運転歴は40年。結構家族ともにカーライフを楽しんだ。もちろん、無事故、無違反であった。

大分前、某評論家の夫人で、運転技術抜群という人が、軽い接触事故を起こした。大したことないと言われていたが、それは恐ぴ寄る脳の病気が原因だったそうな。

老いは確実にやってくる。そして、ある日、判断の衰えが一瞬の事故につながる。

カーライフもそこそこに打ち切り、水戸黄門の「助さん、格さん、もうこのへんでいいでしょう」というセリフをまねて、今はもっぱらテクシーで足を鍛えている。

あえてアナログの魅力

けやき台・佐野　玲子

わが街所沢で年に一度、大きなクラシックカーの祭典があることを皆さんはご存知でしょうか。

私はこの、毎年秋に行われている「クラシックカーフェスティバルinところざわ」にスタッフとして携わっています。当日、国産車から外国車まで、往年の名車たちが250台余り集結し、市内をパレードする光景などは壮観です。

遠くは、京都、新潟などから自走で来られるオーナーさんの愛車自慢を聞けて、懐かしいエンジン音が響き渡る情景などもクラシックカーならではだと思います。

そんなクラシックカーたちの魅力は、個性豊かな独特のスタイルと人間味あふれるメカニックにつきると思います。デジタル化が進んでいる現在、超アナログな空間を作り上げている自分にちょっぴり誇りを感じています。

はつらつ ところ野老っ子

より深く　より美しい音色を求めて

佐藤　卓史（たかし）さん
（久米在住）

『…ベートーベンの「熱情」ソナタの最後の力強い和音が鳴り響くと、会場はその日一番の熱狂的な拍手に包まれ、しばらく鳴り止まなかった…。』

佐藤卓史さんは、10月28日、「第70回日本音楽コンクール」ピアノ部門で、見事第１位の栄冠に輝きました。〝プロの音楽家への登竜門〟と呼ばれる伝統のコンクールに初挑戦での快挙でした。冒頭に引用した聴衆の感想からも、会場当日の興奮が伝わってきます。

佐藤さんは秋田県出身、現在東京芸大附属高校の３年生です。ピアノは４歳から習い始めたそうです。

「きっかけは両親の薦めではなく、自分でピアノを習いたいと言い出しました」という当時のエピソードが持って生まれた才能の一端をうかがわせます。以後、レッスンを続け、中学２年生の終わりごろ、本格的にピアニストを目指そうと決意しました。

念願の高校に入学し、専門的に音楽の勉強を開始しますが、当初はいろいろ苦労もあったようです。

「全国各地の名手が集まってくるわけですから、周囲のレベルの高さに驚き、戸惑いました。でも、そういう刺激がばねになり、練習に励みました。」

毎日新聞社提供

そして、一度、雰囲気だけでも味わっておこうと今回のコンクール挑戦を決めます。

「45分の長丁場ですので、集中力を高めて臨んだのですが、最後の方で緊張の糸が切れてしまって…（笑）。自己採点では70点の出来でした」と当日を振り返ります。結果は第２位なしの第１位という圧倒的な評価を得ました。

「良き先生やライバルに恵まれたことが幸運でした。今回の受賞は、ピアニストになるための大きなチャンスをいただいたものだと思っています。」

ピアノを離れれば、ドイツ歌曲を歌ったり、スピッツの曲を聴いたりと他のジャンルにも幅広く興味を持ち、時には自分で歌を作曲することもあるそうです。

今後については「体力や精神力といった新しい課題が見つかりました。音楽の本質をより深くとらえて、ピアノに生かしていきたい」と語る佐藤さん。まずはその第一歩達成に盛大な拍手を送りましょう。

Tokorozawa ものしりウォーキング ⑳

北秋津 曼荼羅淵（まんだらぶち）と河童伝説

北秋津に持明院（じみょういん）というお寺があります。その南側の崖（がけ）下では柳瀬川の流れが湾曲して大きく入り込み、深い淵になっています。現在は淵の岸がコンクリートで固められています。ここは昔から曼荼羅淵といわれています。西側には西武新宿線が通り、電車からも見えます。

現在のようす

名前の由来は持明院にある曼荼羅堂と関係しています。曼荼羅（曼陀羅）は、悟りの世界を描いた一種の仏画で真言密教の教理や世界観を表しています。お寺に伝わる宝暦（ほうれき）６年（1756）の縁起によれば、昔、弘法大師（こうぼうだいし）が行脚の折に当地に来て大きな木の下に泊まると、夜中に深い淵の中から青竜（せいりゅう）が現われて曼荼羅の巻物を授けました。そこで大師は阿弥陀如来（あみだにょらい）の像を彫刻し、堂宇（どうう）を造って曼荼羅と一緒に納めたというのです。残念ながら曼荼羅にしてもお堂にしても焼失して当時のものは残っていません。

曼荼羅淵は天保（てんぽう）５年（1834）に刊行された『江戸名所図会（ずえ）』にも紹介されています。同書では、日蓮上人が佐渡へ流罪になった折に川の水で曼荼羅を書いたとしています。三ツ井戸伝説もそうですが、弘法大師や日蓮上人などの高僧が登場する霊験譚（れいげんたん）は各地で多くみられます。

また、曼荼羅淵には河童にまつわる伝説があります。曼荼羅淵にすむ河童は、毎年中元になると笹井（ささい）（狭山市）の竹坊と伊草（いぐさ）（比企郡川島町）の袈裟坊（けさ）という河童に進物として人間のはらわたを持って行くことになっていました。人々が恐れて川に近づかないでいると、河童は困って馬の腹に食いつきました。それを馬子に見つかりお坊さんに説教をされて詫び証文を書いたという伝説です。こうした河童伝説は各地に残っています。河童は深い淵にいる水神（すいじん）とされ、それを恐れる人々の信仰が昔からありました。

曼荼羅は修験（しゅげん）との関わりの深い密教でつくられるものです。また河童伝説にあらわれる竹坊や袈裟坊は河童の名前ですが、坊は修験者の呼び名に使われます。

曼荼羅淵と河童伝説は中世の修験者たちの活動を示唆しているように思えます。

江戸名所図会より